



筑波大学履修証明プログラム

教育実践研究プログラム

教育をさらに深める 未来の教育現場へ

本プログラムの内容は、今日対応が迫られている教育課題に関する専門的知識を修得するとともに、議論を通して、教育課題の解決に関する方策について検討します。

加えて、教育実践研究を進めるための方法論(質的及び量的)の修得、

さらに、教育実践研究を自身の経験に当てはめて考えることを通して、教育実践研究の在り方についての探究を深めます。

本プログラムは、教育学学位プログラムが中心となり、心理学学位プログラム、

障害科学学位プログラム、カウンセリング科学学位プログラムが協力して運営することで、学際的な教育内容を提供します。



対象

- 教育の実務に関わった経験のある方
- 教育学と関連した大学院を修了或いは在籍中の方

受講資格

大学卒業以上の学歴を有し、上記の条件に該当する方

特色

- 土日のオンライン開講及び小・中・高の夏休み期間中のハイフレックス開講
- 修了を認定された方に「学校教育法」に基づいて筑波大学長名の「履修証明書」を授与
- 修得された科目の単位を授与

受講料

2年間91,200円(筑波大学の特別の課程履修者として身分証を交付のうえ、図書館利用や学内LAN、manaba並びにMicrosoft365の利用ができます。)

履修期間

原則2年間(1年間での早期修了も可能)

教育目標

- 今日の教育課題に関する専門的知識
- 教育実践に関わる研究課題を設定、解決して、教育改善に貢献することのできる実践力
- 実践研究論文を作成する能力



詳細はホームページへ

お問い合わせ先

筑波大学人間工エリア支援室大学院教務

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

✉: ningen-eprp@un.tsukuba.ac.jp



科目概要等

教育実践研究の課題Ⅰ

～未来を拓くスクールリーダーシップ～

(時間数合計15時間、1単位)

6月中旬～8月初旬の土曜日午後のオンライン開講(同時双方向型)
(期間中、13:45～17:00に実施される合計8つの授業から、受講者は最低5つを選択し、受講する。)

本授業は講義＋演習形式で進められ、以下の教育課題を取り上げる。

●教育における自由・平等・社会的公正	平井 悠介
●教育制度の基本原理と現代的問題	藤井 穂高
●主権者を育てる教育と学校	唐木 清志
●昨今の大学入試改革の動向とその課題	大谷 奨
●「子どもの声」を生かした学校づくり	古田 雄一
●学校統廃合を契機とした学校と地域の再編	丹間 康仁
●学び続ける教師を支える条件	朝倉 雅史
●学校の自律性を高める校長のリーダーシップ	浜田 博文

教育実践研究の課題Ⅱ

～未来に向けた多様な子どもの支援～

(時間数合計15時間、1単位)

9月下旬～11月中旬の土曜日午後のオンライン開講(同時双方向型)
(期間中、13:45～17:00に実施される合計8つの授業から、受講者は最低5つを選択し、受講する。)

本授業は講義＋演習形式で進められ、以下の教育課題を取り上げる。

●発達障害(ASD・ADHD)に対する理解と支援	仲田真理子
●発達障害(学習障害)に対する理解と支援	三盃 亜美
●発達障害のある子どもの読み書き支援	丹治 敬之
●子どもを取り巻くインターネット普及の光と影	藤 桂
●いじめ問題の深層と子どもの支援	濱口 佳和
●不登校児童生徒の実態と必要な支援	飯田 順子
●グローバル社会と多言語教育政策	タスタンベコア・クアニシ
●異文化を生きる子どもの実態と支援	徳永 智子

教育実践研究の方法

(時間数15時間、1単位)

夏休み期間中の連続する2日間(2025年は8月9日と8月10日)に、対面開催として、筑波大学(筑波キャンパス)において実施する。

教育実践研究を進める上で必要となる方法論として、本授業では、質的研究法と量的研究法に注目する。少人数に分かれてグループワークを行い、発表を通してフィードバックすることで、教育実践研究に関する方法論を体系的に理解し、修得することを目指す。なお、本授業で取り扱うデータは原則として、教育の現場で実際に収集したものとする。また、実務家教員の持ち込む具体的なデータに基づいて双方向に学ぶことと、あわせて実務家教員による解説も授業の中にも入れることとし、学校教育実践の実態をより鮮明につかむことに留意する。

(藤田晃之、山本容子、小松孝太郎、千島雄太)

教育実践研究の探究

(時間数15時間、1単位)

夏休み期間中の連続する2日間(2025年は8月23日と8月24日)に、対面開催として、筑波大学(筑波キャンパス)において実施する。

勤務する学校等の教育の現場において、受講者自身が関わる教育実践を研究対象とし、具体的に研究を進めるにあたり、例えば、どのようにリサーチクエストを立てるのか、どのように研究課題を設定するのか、どのように研究方法論を選択するのか、どのように研究を展開するのか、そして、どのように研究成果をまとめるのか、教育実践研究の探究の仕方について、ワークショップ形式の授業で学んでもらう。また、その際、日本学術振興会・科学研究費助成事業の「奨励研究」を参照し、関連する申請書を完成させることをイメージしてもらえるように、授業を進めることにする。

(唐木清志、米田宏樹、朝倉雅史、京免徹雄)

◆オンラインと対面によるハイフレックス学修

◆受講者の課題設定に応じた多様な教育課題に関する講義

◆講義と受講者のグループワーク・ディスカッションとの組み合わせ

◆土日及び夏休み期間中による集中的な授業実施

◆日本学術振興会の科学研究費「奨励研究」の申請に挑戦



お問い合わせ先

筑波大学人間エリア支援室大学院教務

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

✉: ningen-eprp@un.tsukuba.ac.jp

最新情報については
ホームページで
ご確認ください。

